

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191700216		
法人名	株式会社フロンティアの介護		
事業所名	グループホームきらみの憩		
所在地	岐阜県恵那市明智町吉良見472-23		
自己評価作成日	平成31年2月20日	評価結果市町村受理日	平成31年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhou_detail_022_kan=true&JivovsvCd=2191700216-00&ServiceCd=320&Ivoc=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成31年3月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域の中で、住民とのふれあいの場を積極的に持ち地域との繋がりを大切にしています。また、一年を通し季節を感じていただけるよう季節の行事に力を入れたり、音楽療法も取り入れ毎月計画を立て取り組んでいます。終末期ではご利用者様・ご家族様の希望によりホームでの看取りを考えられる方には、協力医・看護師との24時間の連携体制を取り、可能な限り受け入れさせていただいております。「人と人」「心と心」のふれあいを大切にいつも明るく笑顔の絶えないホームでありたい・・・を理念に掲げ、自立支援や一人ひとりの役割を大切に、生き活きと生活を送っていただけるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、自然豊かで静かな環境の中にある。利用者は、隣地に建つふれあい会館で開催される「ふれあいサロン」に、毎月、参加したり、地域の行事等でも、多くの住民と交流しながら馴染みの関係を築いている。事業所は、生活リハビリに加え、音楽療法も取り入れ、利用者が楽しみながら身体機能を維持し、最期まで、尊厳を持って暮らしていけるよう支援している。管理者は、職員が働きやすい職場環境づくりに努め、研修制度を設けて資格取得を奨励し、職員のスキルアップに成果を上げている。また、理念の意義を全職員で共有し、利用者一人ひとりに質の高いサービスを提供できるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時にホーム理念・介護の心得・介護の三大理念・接遇5原則ルールの唱和し共有している。実践につなげていけるよう、委員会や勉強会で話し合いの場を設けサービス向上の取り組みを行なっている。	理念と共に、介護の心得や接遇の原則を明示している。実践の経過を職員間で話し合い、共有している。利用者が、家庭的な環境のもとで、安心して、尊厳のある生活が営めるように支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月、隣接する市のふれあい会館で開催されるサロンへの参加や地域行事に参加し、地域住民との交流を図っている。またふれあい会館の管理を請負、住民の方々への鍵の受け渡しを行い、日常的に交流している。	自治会員として、地域の行事に参加している。隣接のふれあい会館で毎月開催する「ふれあいサロン」でも、地域住民と交流し、馴染みの関係を築いている。また、近隣の住民からは、野菜の差し入れが日常的にある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症相談窓口を開設したり、中学生の職場体験の場や高校生のインターシップの場の提供をし、人材育成に取り組んでいる。RUN伴(認知症になっても自分らしく暮らせる地域作り)への協力を行ない、地域に呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長・自治会長・民生委員・市職員・ご家族等が委員となり、年6回の運営推進会議を通して、利用状況・事故報告・取り組みの報告を行ない、委員の方と意見交換を行い、サービス向上に活かしている。	運営推進会議を隔月に開催し、家族も参加している。運営の実情や行事計画などを報告し、事故やヒヤリハット事例、感染症予防対策や人手不足についても意見交換し、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域密着部会・相談員連絡会・集団指導などに参加し情報交換や連携を図っている。運営推進会議にも市職員より参加をいただき情報交換を行っている。分からないことがあるときには、行政に直接足を運び意見や助言をいただいている。	市主催の会議や連絡会に参加し、連携を図っている。運営推進会議に出席の担当者には、事業所の実情を伝えている。また、市のふれあい会館の管理についてや、土砂災害危険区域ではないが、災害時におけるの助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設け拘束がもたらす弊害や身体拘束に該当する具体的な行為・身体拘束をしないケアの理解と実践について毎月勉強会を開き、廃止に向けての取り組みをしている。玄関の施錠も身体拘束であることを認識し、戸外に出たいときには付き添うようにしている。	身体拘束廃止委員会を毎月開催し、勉強会では身体拘束について正しく理解し、拘束をしないケアに取り組んでいる。言葉による抑制や服薬について話し合ったり、報道されている虐待事件等からも学んでいる。戸外に出たい利用者には、気分転換を図れるよう、さりげなく寄り添い見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について常に考え危険性を十分理解をし、職員同士声を掛け合い防止に努めている。虐待防止委員会や法令遵守委員会等でも毎月勉強会を設け全職員で取り組んでいる。		

岐阜県 グループホームきらみの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見制度を利用されている方は現在みえないが、成年後見制度を職員全員で理解・活用できるよう、成年後見制度勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時、改定時には十分な説明が出来る機会を設け、不安や疑問点など尋ね、ご家族様やご利用者様が理解し納得・同意していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回、運営懇談会を開催しご家族の意見や要望を聞く機会を設けている。来訪時にも直接意見・要望が聞けるように心掛けている。月に一度相談員に来訪いただき、利用者様の意見・要望を聞いて頂いている。	利用者の思いを日常の関わりの中で聞いたり、相談員からも確認している。家族の意見や要望は、来訪時や懇親会の場で聴いている。好意的な意見が多く、アンケートの回答率も高い。また、ホーム便りも相互理解に活かしながら、意見や要望を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が直接意見や提案が出来るようにホットラインの設置と、会議や個人面談・日々のコミュニケーションの中で意見や提案を聴く機会を設け、ケアの改善や運営に取り組んでいる。本社からも定期的にアンケートの実施を行ない、職場環境の改善に努めている。	職員の意見や提案は、日々の業務や会議、個人面談でも話し合っている。ホットラインの仕組みもある。ケアの気づきや課題点を話し合い、現在、レクリエーションの企画・運営について検討中である。管理者は、職員が働きやすい職場環境作りに取り組んでいる。	管理者と職員は、レクリエーションの企画運営について、新たな取り組みが必要と考えている。利用者が今まで以上に、楽しめるようなレクリエーションの企画と運営に期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度の評価や、有資格者に対して能力に応じてやりがいを持って働ける環境の整備に努めている。また、会社独自の役職を配置し、本社研修に参加をしてもらい達成感を持てるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者研修・実務者研修を働きながら取得できるように機会を設けている。新人・リーダー・ケアマネ・FTの各種研修を行っている。毎月の会議の中で研修報告をし、全員が勉強出来る機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内で施設交流や勉強会をしたり、他施設との情報交換や勉強会を行い、質の向上に努めている。恵那市の相談員意見交換会に出席をして、他施設との意見交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を必ず行い、思いが出しやすい環境を作り、共感的な態度でご利用者の不安な思いや、何を求めているか等を傾聴し、信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談時には管理者・ケアマネと現場リーダーと一緒に訪問し、ご本人とご家族と別々に面談を行い、ご家族が困っている事や不安な事を出しやすい環境を整え、傾聴しながら信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の思いを確認し、安心して利用できるよう、その他のサービスの提案や施設の案内、地域のケアマネージャーとの連携を図り、早急に出来る限りの対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴の把握をし、それぞれの出来る事、能力を発揮出来るように関わっている。教えていただいた時には感謝の言葉を伝え、職員とご利用者が共に支えあう関係に心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のほほえみお便りに生活の様子を伝えたり、ご本人の思いを職員が受け止め、ご家族に伝えたり、来訪時にはご家族とゆっくり過ごせる環境を整え、共に利用者を支えていく関係に心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚・友人・近所の顔なじみの方など、気軽に来所していただけるよう常に声を掛けたり、来訪しやすい雰囲気作りをしている。馴染みの場所・美容院にも出掛け関係が途切れないように出来る限りの支援をおこなっている。	家族や親戚、友人、近所の人なども気軽に訪れている。毎月、ふれあい会館で開催されるサロンには、多くの参加者があり、利用者も馴染みの関係を継続している。家族の協力を得て、馴染みの店や美容院、催事にも出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	情報共有を行ない、気の合う人や合わない人の把握に努め、より良い関係が築けるように努めています。他のユニットのご利用者との関わりが出来るように、交流の場の提供をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も出来ることがあれば相談・支援の協力の意思をご家族に伝え、来訪しやすい関係づくりを心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でゆっくり関わる時間を出来る限り作り、思いや意向を聞きとれる環境を整えている。意思伝達の困難なご利用者には表情・行動・生活歴の把握を行い、ご本人の希望に近づけるよう努めている。	日常の関わりの中で利用者の思いを把握し、職員間で共有している。自らの思いを伝えることが困難な人は、表情や仕草から汲み取っている。利用者一人ひとりの習慣や趣味、こだわりを受け止め、本人本位の暮らし方を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシート・センター方式・アセスメント表を活用し、身体状態・生活歴・生活環境等の把握ができるように、ご本人・ご家族より情報収集に努めている。入所前のケアマネジャーにも情報収集を行い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の行動や心身の状態をしっかり観察し、申し送りやカンファレンスにて職員同士の情報の共有を図り、一人ひとりの現状の把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中でご本人・ご家族の思い・意向を事前に聞き取り、介護計画に取り入れるよう努めている。より良く生活するために、フロア会議で多職種の指示やケア内容の検討し意見を反映し介護計画を作成している。	介護計画は、本人の思いや家族の意向を確認し、職員の意見、気づきを踏まえて作成している。定期的にモニタリングを行い、利用者の自立を支え、健康で穏やかな暮らしが出来るよう支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを職員間で情報共有し、ケアプランに沿った支援ができるように記録している。記録の必要性を伝え、記録の充実に努め、職員間の情報共有に努め、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や緊急時対応は、ご本人やご家族の希望をふまえ、柔軟に対応している。状況や意向が変化した時にも、出来る限りのサービスが行えるよう対応している。		

岐阜県 グループホームきらみの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通し、周辺情報など情報交換をし、ボランティアや地域の方々の協力を得ながら、生活を楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望するかかりつけ医があれば、ご家族で受診していただいたり、状況に合わせて通院代行をしている。内科・眼科・歯科、複数の医療機関と関係を密に連携し、定期的に往診していただいている。	かかりつけ医は個々に継続し、通院は家族が担うが、家族の都合によっては職員が代行している。協力医や歯科医による往診もあり、訪問看護ステーションとも連携しながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連携し、常にご利用者の健康管理や医療面での相談、助言、対応を行っている。月2回の往診以外にも24時間の連携が取れる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の対応、医師からの説明をご家族様と一緒にいたり、支援方法などのサマリーを記入し、医療機関に提供している。入院期間中も見舞い、医師・ケースワーカー・看護師との情報交換しながら、早期退院への支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期について、ご本人やご家族の意向をふまえ、医師・薬剤師・職員が連携を取り、納得した最期を迎えられるような支援をしている。都度ご本人・ご家族と話し合いの場を持ち意思確認を行い、記録に残し全職員で共有するよう努めている。	重度化・終末期の方針は、契約時に説明し、同意を得ている。利用者の状態に合わせ、医師を含めた関係者で話し合い、同意書を交わした上で方針を決定している。家族の選択を尊重し、医療連携を密に行いながら看取り介護にも取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応について定期的に勉強会を行ったり、看護師による救急時の対応等定期的に勉強会を行い適切な対応が出来るよう話し合い職員全員で知識を高めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2日の防災訓練の実施やマニュアルを作成し、避難誘導が安全に行えるよう取り組んでいる。運営推進会議を活用し地域住民の方の協力体制を整えている。災害時の非常食の確保や自家発電機の確保をしている。	災害訓練は消防署の指導の下で実施し、夜間や土砂災害も想定しながら、通報・避難・初期消火の訓練を行っている。各種マニュアルを整え、備蓄品を確保し、停電に備えて小型発電機も備えている。自治会長が防災委員のメンバーであり、地域の協力を得られる体制がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の誇りやプライバシーを損ねないような声掛けをする様に常に接遇5原則ルールを意識し、ゆっくり、優しく、丁寧に、相手に分かる言葉を用いるよう心掛けている。言葉がけで気になるときには、職員同士で注意し合えるようにしている。	職員は、常に接遇5原則を意識し、周知徹底している。言葉かけは、ゆっくり、短く、分かりやすく、声のトーンにも配慮をしている。排泄用品の棚にはカーテンをかけ、プライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるように、一人ひとりに合わせた声掛けを行い、自己決定できない方には、選択肢を示し答えやすく働きかけている。希望や思いの表出がしやすい、居室や入浴時等で話を聞ける環境を整えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、1人ひとりのペース・体調・気持ちに合わせて過ごしていただくよう支援している。何をしたいのか問い、レクリエーションや散歩等の希望に応じて出来る限りの支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧水や乳液を使用される方や化粧の希望があればご利用者様にあわせて支援している。毎月理美容に来ていただき、ご本人の希望に沿ったカット・染め等が出来るようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを聞き、個々で出来る限り対応している。ご利用者の能力に合わせ、下準備のお手伝いや、片付けを職員と一緒にしている。職員も同じテーブルで食事をし、楽しく食事が摂れるよう会話をしている。	近所から、旬の野菜の差し入れがあったり、利用者の好みを取り入れながら、食欲を満たすことが出来るよう献立を工夫している。利用者も、出来る人が出来る範囲で、下準備や片付け等の役割を担っている。職員と一緒に食し、楽しい食事時間を共有している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量をチェックシートに記入し、把握できるようにしている。水分量の少ない方には、好みの飲み物に変えたり、ゼリーにして水分摂取を促している。栄養が不足している方には栄養補助ドリンク等を利用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持ができるよう、毎食後の口腔ケアを行っている。歯科衛生士による口腔ケアに関する指導を月に一度受けている。必要時には歯科往診・口腔ケアを専門医に依頼し管理をしている。		

岐阜県 グループホームきらみの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを周知し、時間を見て声掛け誘導して出来る限りトイレでの排泄ができるよう支援している。一人ひとりの状態に応じてリハビリパンツやパットの種類を使い分け、排泄の失敗を少なくできるように検討し支援している。	個々のパターンに応じて、声かけとトイレ誘導を行い、自立につなげている。自立度や頻度に合わせて、適切な排泄用品を選択し、費用の軽減にも配慮している。夜間のみ、安全性を考慮し、ポータブルトイレ利用の人もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便を排便シートにて確認し、個々の状態に応じた下剤を服用している。個々にあわせてヨーグルトの摂取や水分補給や日々の運動・腹部マッサージで自然排便ができるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時にはその日の気分やタイミング・湯加減などを聞き、出来る限りご本人の希望に沿った支援をしている。入浴中は利用者様とゆっくり会話を楽しみ気持ちの良い入浴が出来るよう支援している。	入浴は希望に沿って支援し、その日の気分や体調によっては、順番や曜日を変更するなど、工夫している。シャワーチェアも備えているが、重度の利用者も出来る限り湯船に浸かれるよう複数で介助し、コミュニケーションを図りながら、入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はご利用者様の希望や体調に合わせて、休息できるよう環境整備をしている。夜間、寝付けない時には、職員と一緒に話をして穏やかな時間を過ごしたり、温かい飲み物を提供したり、安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりの服薬ファイルを作成し、薬の目的や副作用等把握出来るよう努力している。又、薬の変更や状態変化があるときには、しっかり記録し申し送りを行い連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話より、やりたい事や楽しみな事を聞き取ったり、一人ひとりの生活歴を把握し、楽しみや役割を持って生活が出来るように場面作りを心掛け支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設の近くに公園へ散歩に出かけ、ベンチに座り話ができる環境にあり、日常的に外気に触れている。ご本人の希望を聞き取り、出来る限り希望に添えるように外出支援をご家族と共にしている。	広い敷地内を歩いたり、近くの公園も散歩コースとなっている。喫茶店や買い物、地域のイベントにも出かけている。年間行事として、季節の花見、紅葉狩り、バラ公園にも出かけている。本人が行きたい所があれば、家族の協力を得ながら、外出支援を行っている。	

岐阜県 グループホームきらみの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の希望や能力に合わせてお金持ってもらったり、外出時には財布を持って出掛け、ご自分で支払いをしていただけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持ってみえる方には、毎日充電や電源の確認をしている。電話をしたいとの希望される方には、事務所にきて頂き自ら電話をかけていただいている。又、希望者には年賀状発送のお手伝いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの壁には季節ごとにご利用者様と一緒に作成した作品を飾り、季節を感じられる工夫をしている。外には鳥の餌台があり、大窓からバードウォッチングが楽しめるようにしている。室温・湿度に気を配り、空調管理を行っている。	ホームの玄関や室内は、季節の花で溢れている。共用の間には、季節感のある共同作品、リース、タペストリー、絵画、写真などを飾っている。畳コーナーもあり、随所にソファが置かれ、利用者が好きな場所で過ごすことができるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットの行き来が自由にできるように支援している。各所にソファを置き、気の合ったご利用者様同士で座れる場所を作っている。食堂のテーブルも利用者様に合わせ、配置や席の考慮をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には好みの物を置いて頂き、居心地よい空間を作ってもらったり、使い慣れた家具を使用することでの利点をご家族様に理解していただき、協力を得て馴染み深い物を家から持って来ていただくようにしている。	居室には、ベッド、エアコンが設置され、使い慣れた家具や収納ケース、テレビ等を持ち込み、好みに配置している。見やすいカレンダーや家族の写真を飾り、居心地良く過ごせるよう工夫している。表札は分かりやすく個性的である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態に合わせ家具やポータブルの配置を変えたり、何かわかるように貼り紙をしたり環境整備に努めている。手すりが必要な場所があれば設置し安全に生活が送れるように努めている。		